

剣風



事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎4階
Tel (048)834-8869
Fax (048)834-8879
<http://www.saitama-kendo.or.jp>
(編集責任者 川合育三)

第15号 令和元(2019)年7月1日発行

(題字 元会長 野澤 治雄)



生涯剣道

前埼玉県警察教養課長(現 朝霞警察署長) 米山 和仁
(剣道教士7段)

人生で夢中になれるものがあるということは幸福なことだと思います。それを一生続けることができたらなおさらです。私にとって剣道がまさにそれです。

私は、中学校の部活動で剣道を選んだことをきっかけに、剣道にのめり込んでいきました。

中学校の剣道部の顧問で恩師である鶴間信好先生に「剣道を一生続けるのなら、警察官か教員だろう。」とアドバイスをいただき、その時から今の自分の職業を決めていたように思います。

高校では谷川恒夫先生から「真直ぐに打つこと。理合いに則った正しい剣道をする。」を御指導いただきました。

高校を卒業し、私は迷うことなく、埼玉県警察に奉職する道を選びました。警察学校では、(故)坂東治雄先生をはじめ、大勢の教官・助教の先生方に警察官としての基本と剣道を御指導いただきました。

その後、1年間の交番勤務を経て、思いもかけず「埼玉県警察剣道特別強化訓練員(特練員)」の指定を受け、文字通り剣道漬けの日々を7年間経験させていただきました。当時の県警の剣道指導陣であった(故)市川彦太郎先生を筆頭に錚々たる先生方から御指導をいただくとともに、全国トップクラスの剣道家の方々とも剣を交える機会をいただけたことが、私にとって大きな財産となったと思ひ、感謝しております。

警察には異動がありますので、ときには剣道から距離を置かざるを得ない時期もありましたが、そんな時にも、谷川先生から「剣道の稽古ができなくても、剣道から心を離すな」という言葉をいただき、自分なりに剣道と生活ということについて考えるきっかけになりました。

剣道の理念は「剣の理法の修練による人間形成の道」とされるとおり、技術の修得からはじまった剣道も真剣に向き合うことで自己の確立、合気、我慢、決断、残心…等多くの事を学ぶことができ、そしてそれは自分自身の考え方の主軸となってきたように思います。

特に剣道は武術をその根源とした武道ですから、一瞬の攻防に命をかけることがその真髓であり、そこにはお互いの全人格をかけた真剣さと心と心の攻め合いが求められると思います。これは日常生活においては、今現在の自分の立場やすべきことに覚悟をもって一所懸命に取り組むことと自分勝手ではなく相手の気持ちを慮るということに繋がるものと考えられ、私自身の生き方の基本となっているものです。

日本の伝統文化である剣道は非常に奥深く難しいものですが、だからこそ探究心をそそられます。私は、これからも生涯、剣道の修行を通じて「警察職員の信条」の中にもあるように、人格を磨き、能力を高め、自己の充実に努めていきたいと思っています。

今回このような執筆の機会を与えていただいたことに感謝するとともに、埼玉県剣道連盟の益々の御発展を祈念申し上げます。

令和元～2年度 公益財団法人 埼玉県剣道連盟役員 (順不同)

名誉会長 顧問 会長 副会長 専務理事 理事 監事 評議員	大久保和政 茂木 廣次・関口 善行・奥田 昌利 山中 茂樹(加 須) 栗原 憲一(狭 山) 齋藤 茂樹(加 須) 川合 育三(熊 谷) 神山 芳男(浦 和) 増田 吉男(草 加) 矢 部勇介(越 谷) 片山 剛(春日部) 加庭栄之助(久 喜) 北田 正(所 沢) 吉野 英明(東入間) 北村 尚義(川 越) 爲谷 健一(東松山) 中嶋 秀雄(小 川) 佐藤 安治(川 口) 内田 明(朝 霞) 佐藤 義則(浦 和) 中村 好一(大 宮) 林 貞次(上 尾) 河野喜八郎(鴻 巣) 田中 宏明(北 本) 荒井喜久男(本 庄) 高橋 徹也(秩 父) 大澤 規男(警 察) 原 義克(高 校) 佐藤 忍(居合道) 瀧澤 利行(杖 道) 伊田登喜三郎(東松山) 宮下 達也(北 本) 會田 紳次(浦 和) 柳澤 昌秀(上 尾) 山田 守男(草 加) 中村 豊孝(八 潮) 小川 俊文(越 谷) 石島 秀夫(吉 川) 伊藤 徳男(春日部) 横山 久夫(杉 戸) 甲田 侃(久 喜) 藤原 康人(幸 手) 千葉 達也(加 須) 島村 勉(羽 生) 小檜山泰治(行 田) 荒井 信義(所 沢) 菊川 隆行(東入間) 松井晴太郎(狭 山) 弘中 史(入 間) 大久保勝示(川 越) 大釜鉄太郎(飯 能) 石井 利幸(西入間) 長峰 一雄(東松山) 内田 淳也(小 川) 齋藤 俊博(川 口) 水島 繁(蕨) 上野 勇仁(戸 田) 柴田 篤三(朝 霞) 吉田 聰(浦 和) 島村 公平(大 宮) 田中 章(上 尾) 亀尾 一弥(鴻 巣) 柳瀬 浩美(北 本) 佐々木詳之(熊 谷) 関根 照雄(深 谷) 清水 周二(寄 居) 堀内 睦夫(本 庄) 吉橋 守夫(秩 父) 黒田 亮一(小鹿野) 関口 啓一(警 察) 金子 益巳(高 校) 穂田 清(大 学) 村田 健(居合道) 上田 睦也(杖 道) 坂井 順司((学識))	相談役 水野 仁・豊嶋 正夫
--	---	----------------

ご 挨拶

公益財団法人埼玉県剣道連盟会長 山中 茂樹

この度の理事会で再任されました。元号も令和に改まり、より心を新たに、剣道の発展の為に尽力いたす所存でございます。会員の皆様方には今まで以上の御支援御協力をお願い申し上げます。

大きな課題である剣道人口の減少、倫理に関する対策。そして、四部会での総括を踏まえての諸事業の展開。また、新規事業の策定、実施。役員一同、心を一つにして努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大会記録《平成30年後期・令和元年前期》

◆高校新人大会（1月28、29日・埼玉県立武道館）

▽男子団体 ①本庄一（鈴木、入君、井上、堀尾、槻館）②立教新座 ③大宮東 ③浦和

▽女子団体 ①本庄一（菊池、中村、大泉、大島、小川）②埼玉栄 ③東京農大三 ③星野

◆中学新人大会（11月8、9日・埼玉県立武道館）

▽男子団体 ①川口芝 ②北本 ③本庄一 ③春日部大沼
▽同個人 ①鈴木優太郎（越谷栄進）②土井（川口芝）③鈴木（本庄一）③竹対（本庄一）

▽女子団体 ①本庄一 ②春日部大沼 ③さいたま三室 ③北本
▽同個人 ①白倉鈴乃（川口芝）②柳（北本）③石川（春日部大沼）③熊谷（本庄一）

◆県剣道大会（11月4、23日・埼玉県立武道館）

▽個人小学3年以下 ①飯塚咲結（所沢）②西沢（入間）③川上（杉戸）③椎橋（川越）

▽同4年 ①鈴木心士（西入間）②関寺（所沢）③西城（同）③工藤（朝霞）

▽同5年 ①若林直哉（西入間）②菊池（上尾）③石井（北本）③柳（同）

▽同6年 ①宮田慈生（川越）②松井（越谷）③坂田（狭山）③小池（入間）

▽団体 ①越谷B ②浦和A ③川口A ③狭山

▽女子 ①渡會愛梨（高校）②宮沢（所沢）③本郷（高校）③佐藤（東松山）

▽4段以下 ①佐々木優人（朝霞）②凶末（東松山）③泉（北本）③長峰（北本）

▽5段以上 ①平野伸一郎（警察）②田島（同）③益子（同）③足立（同）

▽夫婦 ①上野哲平・祐佳（川口）②夏井克聡・舞（大宮）③佐山裕一郎・香織（小川）③末武秀尉・あさ美（川越）

◆全日本都道府県対抗県予選

（2月16日・埼玉県立武道館）

▽次鋒 ①元井大和（狭山）▽五将 ①竹越充（川口）▽中堅 ①小野秀樹（高校）▽三将 ①精松慎治（警察）▽副将 ①内田貢市（東松山）▽大将 ①保坂武志（高校）

◆全日本都道府県対抗女子県予選

（4月7日・埼玉県立武道館）

▽次鋒 ①安達小粋（東松山）▽中堅 ①志藤綾子（同）▽副将 ①荒井貴子（久喜）▽大将 ①奈良悦子（北本）

◆全国健康福祉祭交流大会県予選

（4月7日・埼玉県立武道館）

▽60歳以上65歳未満 ①長谷川克己（越谷）②荒川（入間）③佐藤（朝霞）③此上（行田）

▽65歳以上70歳未満 ①甲村龍彦（北本）②小川（西入間）③下川（久喜）③川上（杉戸）

▽70歳以上 ①渡辺秀男（東松山）②山元（朝霞）③伊藤（同）③鈴木（川越）

◆県女子選手権兼全日本女子選手権県予選

（6月1日・埼玉県立武道館）

①荒井貴子（久喜）②志藤（東松山）③村山（県警）③工藤（東松山）

◆県道場少年大会

（6月1日・戸田スポーツセンター）

▽小学団体 ①解脱錬心館 ②生越錬成会 ③北本剣士会 ③四誠館

▽中学団体 ①解脱錬心館 ②武蔵館 ③長瀬修心館 ③大利根剣友会

◆県学校総体高校の部兼全国高校総体県予選

（6月3日、17日、18日・埼玉県立武道館）

▽女子団体 ①淑徳与野（伊井、権田、佐々木、菊地、濱野）②埼玉栄 ③東農大三 ③本庄一

▽同個人 ①中村日香（川口市立）②濱野（淑徳与野）③佐々木（同）③菊地（同）

▽男子団体 ①立教新座（土井、高橋、杳掛、北野、中山）②埼玉栄 ③山村学園 ③城北埼玉

▽同個人 ①井上賢生（本庄一）②中山（立教新座）③宇田川（埼玉栄）③北野（立教新座）

◆第7回埼玉県杖道大会

（6月9日・埼玉県立武道館）

▽個人戦

○基本の部 ①石灰克之（浦和杖道会）②細野（埼玉杖神会）③関根（久喜杖道会）③宮田（埼玉大学）

○初段の部 ①岡由紀枝（久喜杖道会）②大貫（武南杖道会）

○二段の部 ①猪井剛（大宮杖道会）②高橋（さいたま杖道会）③加藤（か）（久喜杖道会）③加藤（李）（久喜杖道会）

○三段の部 ①齋藤浩（彩杖会）②三角（彩杖会）③伊藤（彩杖会）③深田（埼玉杖神会）

○四段の部 ①杉崎かずみ（久喜杖道会）②武藤（東入間支部）③鳥海（大宮武林会）③倉上（久喜杖道会）

○五段の部 ①杉崎利春（久喜杖道会）②長島（武南杖道会）③小山（東入間支部）④江口（久喜杖道会）

▽団体戦

①久喜杖道会（先鋒：笹部 中堅：杉崎（か） 大将：杉崎（利））

②武南杖道会（先鋒：大貫 中堅：鶴田 大将：長島）

③東入間支部（先鋒：勝呂 中堅：駒井 大将：小山）③凜清会（先鋒：稲垣 中堅・吉野 大将：天羽）



八段昇段にあたり

若林 耕多（久喜剣道連盟所属）

令和元年5月1日の審査会におきまして昇段することが出来ました。埼玉県剣道連盟の先生方、久喜剣道連盟・鷺宮剣道クラブの先生方と生徒達、埼玉県東部地区の剣友達、本当に多くの方々から稽古をいただいた結果が昇段に繋がったこと、心から感謝申し上げます。昇段を目標として稽古を積んできたものの、段位の重さに押し潰されそうな心境ですが、僭越ながら稽古での意識、当日の心境等を述べさせていただきます。

まず、私が八段を受審する事自体信じ難い事でしたので、受審者として審査会場に立てることを誇らしく感じていました。去年の審査会で初めて二次審査を経験したのですが、会場の雰囲気はガラリと変わり、ピンと張り詰めた空気感や緊迫感を感じた時、「この会場で剣道が出来るんだ！」と喜びのあまり震え上がったことは忘れられません。その時は残念な結果に終わりましたが、「もう一度ここで剣道をしてみたい！」と強く思いました。特に稽古で意識した事は、「教わった事の実践と継続」・「力を抜く事」・「審査当日はいつもどおり立ち会う」事でした。これらは今後も継続して意識する稽古をしていきます。

審査当日は、稽古してきたことに自信がもてた事、平常心で挑めた事が良かったのかなと思っています。ただし、少しでも稽古を積みたい思いから、仕事の仮眠時間を削って稽古しておりました。これはお勧めできません。健康な心身あつての剣道ですので、今まで大きな怪我等が無かった事に奢らず、今後は少し身体を労わることにも目を向けなければ…と感じました。

最後に、これからは段位に恥じぬよう、ひたむきに稽古に取り組んでいくとともに、微力ながら、できる限り剣道の普及・発展に尽くしたいと思っています。埼玉県剣道連盟の先生方をはじめ、これまで共に稽古を積み、剣を交えていただいた方々に感謝申し上げ、審査会の報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

「我が師を語る」 — 剣道範士 北村博學先生 —

剣道 教士七段 尾崎 勝美

北村博學先生に私が初めて接したのは昭和31年の夏であった。その年の4月、私は県立川越高校に入学し剣道部に所属していた。夏休みの合宿に北村先生は剣道部の大先輩として、私たちの指導に来校されたのだ。先生はその頃まだ50歳を過ぎた頃であったと思う。また、当時はまだ大学生であった水野仁先輩（後に範士八段）も合宿の指導に参加されていた。

この合宿で私が今も記憶に焼き付いているのは、北村先生の一瞬の内に稽古相手の左右の胴を、パ、パンと打突するその手練の業であった。それは上級生の一人が先生に稽古をお願いし、その生徒が面に飛び込んだ時、それを正面に迎えながら、先生の竹刀は生徒の左右の胴を瞬時に打っていたのである。まさに目を見張る速業であった。

後年になってから、北村先生のしなやかな手の内の竹刀捌きについて多くの方々が感嘆の声で語るのを聞くつど、私はこの時のことが思い出されるのであった。

明治38年生まれの先生は、川越明信館に6歳で入門し、剣道の稽古を始めた。大正10年にはまだ県立川越中学校の生徒であったが、東京神田の修道学院に入門し、高野佐三郎範士に師事されたのである。

この頃の川越中学は全国中等学校剣道大会において活躍し、上位入賞の常連校であった。大正11年には決勝戦に進出するも秋田師範に惜敗し準優勝となっている。この時期の川越中学は北村選手が中心のチームであった。当時は武者修行と称して、先生たちは各県の強豪中学校や師範学校に、防具を担いで稽古に歩き回ったという。

大正15年11月、先生が21歳の時には、第3回明治神宮競技大会、剣道部門青年団の部に埼玉県代表で出場し、決勝戦で岡山の藤村選手を下し見事優勝を果たしている。この剣道大会は、現在の国民体育大会にあたるというから全国大会の優勝を遂げたのであった。

この時期は埼玉県師範学校を出て、川越市尋常高等小学校の教員になりたての頃であった。先生は生涯にわたり剣道を継続していったが、むしろ後進の指導に熱意を注いだ。このことは教育者として青少年を育成する道と重なっていたといえるだろう。昭和40年に川越市立初雁中学校校長を最後に退職するまで40年間教職にあり続けた。

一方、剣道では埼玉県剣道連盟審査員・審議員等を歴任し、また川越武道館の初代館長を務める





など、剣道への積極的な関わりを続けた。教職を定年退職後は、川越市内に少年剣道教室を開設し、多くの子供たちの剣道育成に努められた。

昭和48年に私は自分の勤める職場に剣道部を作りたいと考え、北村先生にご指導を仰いだ。先生はすでに70歳に近い年齢であったが快く引き受けられ、私が週1回の稽古でお願いしたいと申し出たところ、週1回では稽古にならない、2回にきなさいと言われてしまった。一方で子供たちの指導稽古も継続されていたのだから、その熱心さには頭の下がる思いであった。

剣道部に集まったメンバーの大半は、過去に剣道を経験していたが、中には初心者もいたから、まずは素振りから始まった。先生の素振りは独特で、竹刀の振りは八方からの攻撃に対応できるようにと、縦、横、斜めにそれも上からも下からも、左からも右からも返せるようにと、実に自在な素振りであった。この素振りを竹刀の刃筋を通して振るのは、手の返しが難しくなかなか骨の折れる稽古であった。先生は私たちの目の前で竹刀を自在に操って見せた。先生の竹刀はその手の内で軽々と方向を変え、右から左へ下から上へと走った。

先生は所用があって指導を休む時には、必ずメモ書きを事前に渡され、ここに次の稽古内容を書いておいたから、これを練習しておくようにと指示を出されて休むのが常であった。それだけ先生は、私たちの稽古に真摯に取り組んでいただいていたのである。不肖の弟子としては今もって恥じ入るばかりである。

80歳を過ぎる頃になっても先生は、いつも背筋を真っすぐ伸ばした姿勢で私たちに対していた。そして時折先生は「剣道家が腰を曲げて立つようになったら、もう剣道家ではなくなるからな」と言われた。背筋を伸ばした姿勢を維持することは、若い者にとっても大変なことである。それを80過ぎても自らに課して律する態度は、私たちの模範たろうとする先生の生き方に由来していたと思う。

先生は短歌の道にも若いうちから親しみ、その晩年に歌集『日路志歌集』を上梓している。その中には剣道にかかわる歌も多くみられる。その内の一首を次に記す。

剣道の極意の太刀と人間は 自が心中の敵を絶つ太刀

先生はよく「自分は6歳から剣道の道に入り、多くの先生方のご指導を受けて今日がある。そのお返しを少しでもしなければ」と言われていた。先生の剣道へのかかわりはその実践にあったといえるかも知れない。昭和53年に先生は範士号を受領され、昭和62年8月9日に逝去された。享年81歳であった。

平成30年度後期・令和元年度前期昇段者一覧

剣道 8 段

〈令和元年5月1日(京都)〉
若林 耕多(久喜)

剣道 7 段

〈平成30年8月18日(青森)〉
悦規 俊介(吉川)
荒川 由則(吉川)
橋本 雄二(春日部)

瀧澤 晃(久喜)
仲島 昭靖(西入間)
足立 孝明(小鹿野)

〈平成30年11月17日(愛知)〉
松尾 守(東入間)
齋藤 雄一(入間)

〈平成30年11月27日(東京)〉
植村 寛治(草加)
永松 武徳(越谷)

安野 純士(久喜)
藤原 康人(幸手)
鈴木 康高(行田)

唐木 裕三(東入間)
鈴木 寛俊(東入間)
杉山 正浩(狭山)

佐藤 幸喜(川口)
里村 豊(川口)
内田 龍介(蕨)

阿久津富司(戸田)
羽鳥 和夫(浦和)
小須田今朝人(北本)

井上 英樹(警察)
蒔田 正人(高校)
〈平成30年11月28日(東京)〉

小島 好行(草加)
小日向 裕(杉戸)
川崎 淳志(杉戸)

三國 健敏(行田)
加藤 恵司(飯能)
三宅 秀明(東松山)

東條美江子(川口)
伊藤 将人(浦和)
野沢 太(浦和)

堀口 文彦(熊谷)
岡山 隆一(熊谷)
田中 和子(本庄)

関口 豊(警察)
〈平成31年4月30日(京都)〉
布施 誠(浦和)

北嶋 秀行(浦和)
吉田 潤(北本)
相崎 健一(高校)

三平喜久一(川口)
〈令和元年5月11日(愛知)〉
荒井 貴子(久喜)

榎本 学(西入間)
高根 修一(東松山)
岡野 邦雄(東松山)

小野島 優(大宮)
宇田川智弘(川口)
川上 邦元(戸田)

新井 誠治(朝霞)
高橋 了(浦和)
矢部 利人(北本)

新井 辰司(小鹿野)
加藤 喜大(小鹿野)

剣道 6 段

〈平成30年8月19日(青森)〉
井上 与一(越谷)
鈴木 真仁(越谷)

内田 浩輔(東松山)
佐土原 亮(川口)
関根 信一(朝霞)

山中 武二(朝霞)
須山 勉(浦和)
福田 利明(上尾)

持田 祥宏(深谷)
坂本 旭(小鹿野)
倉成 俊之(高校)

〈平成30年8月26日(福岡)〉
松本 和則(浦和)
浅川 秀広(久喜)

〈平成30年11月18日(愛知)〉
竹越 充(川口)
野口 和久(川口)

〈平成30年11月25日(東京)〉
萬代 佳裕(草加)
大熊 俊彦(草加)

二瓶 剛(越谷)
江良美佐代(越谷)
西川 哲史(越谷)

平井 武蔵(春日部)
中村 鈴男(春日部)
大塚 規子(久喜)

高橋 明美(久喜)
小澤征四郎(久喜)
上野 進也(久喜)

星野 英紀(久喜)
川山 相幸(加須)
赤沼 康弘(所沢)

関寺 紘美(所沢)
秋山 則子(入間)
秋山 裕樹(西入間)

小西 隼人(西入間)
山口 義測(東松山)
石崎 仁(川口)

谷本 晃(川口)
北島 史智(朝霞)
佐藤 公也(朝霞)

星川奈穂美(朝霞)
池 祐一(浦和)
馬中 歩(浦和)
西 博尚(浦和)
渡辺 良平(浦和)

渡部 孝雄(浦和)
永瀬 幸二郎(浦和)
橋本 昭一(大宮)

村田 一彦(大宮)
宮口 克己(大宮)
川村 潤二(大宮)

國吉 将太(上尾)
塚本 学(鴻巣)
栗田 義行(熊谷)

石川 真吾(警察)
中阪 絹子(高校)
和田 光史(高校)

齋藤 衛(高校)
関根 龍一(高校)
小野 秀樹(高校)

〈平成31年4月29日(京都)〉
田上 宏典(草加)
浦木祐一郎(吉川)

末木 健之(所沢)
小林 竜也(北本)
飯島 正基(警察)

小野 友栄(高校)
〈令和元年5月12日(愛知)〉
中村 則子(八潮)

佐藤由香里(越谷)
河股 伸行(越谷)
野中 八郎(杉戸)

井上 雅陽(杉戸)
早乙女聡子(久喜)
小山 大器(東入間)

原田 政典(川越)
武田 忠利(蕨)
佐竹 康彰(戸田)

浅岡 宏二(朝霞)
長野 良昭(浦和)
碓 誠基(大宮)

小河 浩(秩父)
池野 智康(警察)
井之上昂大(警察)

剣道 5 段

〈平成30年11月11日(大宮武道館)〉
大塚 高志(越谷)
坂本 憲一(吉川)

佐川 千明(春日部)
大津 博儀(春日部)
伴野 文明(春日部)

大園 勝洋(杉戸)
辻野 学(杉戸)
大西 仁(加須)

阿久津奈津子(羽生)
八房 智範(所沢)
白石 三男(所沢)

藤田 涼平(東入間)
杉山 賢司(川越)
高原 右京(西入間)
齋藤 学(西入間)

粟田 康彦(西入間)
更科嘉奈子(西入間)
山瀬 奨大(東松山)

三橋 史典(東松山)
志藤 綾子(東松山)
若林美穂子(東松山)

古屋 一樹(小川)
山本 祐輝(川口)
岡本 貴志(川口)

大竹 重晴(川口)
山本 芳樹(蕨)
田中 真一(戸田)

島川 孝敏(朝霞)
猪ノ口洋平(朝霞)
石川堅一郎(浦和)

齋田 求(浦和)
中村 唯(浦和)
宗片 宏樹(大宮)

石川 岳(大宮)
田中 雄(大宮)
中井 学(大宮)

武藤 重人(大宮)
関根 忠(上尾)
小池 泰三(上尾)

石関 博人(鴻巣)
泉 和毅(北本)
黒澤 大輔(熊谷)

川上 拓真(警察)
高梨 敬輔(警察)
高井 俊孝(警察)

藤田 光博(高校)
吉田みゆき
〈平成31年3月10日(埼玉県立武道館)〉

中田 一夫(草加)
朝 俊二(草加)
鈴木 克也(八潮)

伯耆田 西(越谷)
真崎 秀彦(春日部)
関口 陽美(杉戸)

榎本 将宣(久喜)
久保田 篤(久喜)
北 龍悟(加須)

大塚 竹雄(加須)
金子 芳佳(加須)
野川 雄気(羽生)

壘野 幸江(行田)
日出間 岳(東入間)
和泉 尚将(飯能)

藤巻 俊輔(飯能)
山田 真也(西入間)
佐藤 浩司(東松山)

五十嵐基起(小川)
須永 雄也(川口)
青木 明一(川口)

金井 慎治(川口)
平野 博明(川口)
曾根亜希子(川口)

金子 弥生(戸田)
川田 武(朝霞)
越田 純也(浦和)

清水 聡(浦和)
中牟田侑紀(浦和)
内田 夏実(浦和)

鈴木 弘人(大宮)
西田 涉(上尾)
酒井 茂雄(上尾)

長田 裕暉(鴻巣)
大野 久生(鴻巣)
岡野 浩(北本)

引間 紀之(寄居)
大澤 将史(秩父)
田島 哲也(秩父)

山口 佳代(秩父)
口田 超貴(警察)
精松 慎治(警察)

田中 紘貴(高校)
小口 香織(高校)
〈令和元年7月7日(大宮武道館)〉

久保 匡之(草加)
若松 忠(草加)
中濱 千尋(越谷)

中山 幸夫(久喜)
高井 悟(行田)
安田 宏輝(所沢)

藤原 廣行(狭山)
木下 裕太(入間)
野村 和則(入間)

長須 智恵(川越)
西村 幸生(東松山)
近藤 淑記(東松山)

鈴木 克則(東松山)
森田 聡(東松山)
青木 邦仁(川口)

本田 智宏(蕨)
栞田 圭(朝霞)
上原 孝(朝霞)

井浦 秀真(浦和)
小池 悠太(大宮)
高橋 遼(大宮)

関口 郁子(大宮)
塩野祐希子(上尾)
藤代 翔(鴻巣)

岩田 真行(熊谷)
加藤 正行(熊谷)
岡本 正利(警察)

剣道 4 段

〈平成30年11月11日(大宮武道館)〉
荒川 玄暉(草加)
加藤 信広(草加)

島 依世(草加)
山本 美羽(草加)
島 和美(草加)
玉置 潤(越谷)

富樫竜之介(吉川)
門井 一将(加須)
根岸 貴夫(東入間)

吉田 明永(狭山)
池上 直毅(入間)
野原 康弘(川越)

小梅 昌(東松山)
加藤 慎一(東松山)
遊馬 祐実(東松山)

松浦 楓生(川口)
小室 雄一(川口)
高橋 寛央(川口)

石原 千宏(川口)
谷塚 勇夫(川口)
菊地 春香(川口)

室崎 武彦(戸田)
川口 莉穂(朝霞)
野田 武男(浦和)

内田 浩平(浦和)
松坂 工(浦和)
程川 和美(浦和)

島田 裕也(大宮)
大越 一範(大宮)
小野寺 崇(大宮)

藤田 雄一(大宮)
富岡 美彦(大宮)
遠藤めぐみ(大宮)

葛西清之介(上尾)
原田 貴央(北本)
島田 義和(寄居)

持田 直也(本庄)
青葉敬一郎(秩父)
加藤 幸男(秩父)

大野 綾真(警察)
小早川隆哉(大学)
久保 圭吾(大学)

田中 龍星(大学)
中村光太郎(大学)
大田黒 航(大学)

菊地 春花(大学)
新井 佳苗(大学)
小沼 華奈(大学)

佐藤 涼乃(大学)
岩間 瑞(大学)
羽田 優華(大学)

〈平成31年3月10日(埼玉県立武道館)〉
柳沢 章仁(草加)
三澤 英治(越谷)

芥川 義浩(吉川)
天田 穰(杉戸)
藤野 直也(所沢)

長沼 達弥(所沢)
伊藤 精彦(東入間)
宮原 巧(入間)

塩田 大真(入間)
坂本 洋希(入間)
大館 裕子(入間)

粕谷 亮太(川越)	福田 匡晃(狭山)	〈平成30年11月(東京)〉	〈平成31年4月〉	小久保 博(深谷)	永久 貴子(高校)
小室 春貴(川口)	鴨下 怜弥(入間)	福島 充彦	有賀 祐二	原澤 秀夫(深谷)	津久井未来(高校)
山岡 純平(川口)	有田 尚輝(入間)	宗村 直明	小笠原晃基	高橋 繁夫(東松山)	〈令和元年5月6日〉
村木 健(川口)	柳澤 司(川越)	安藤 和雄	高橋 真樹	〈令和元年5月6日〉	澁江やよい(越谷)
佐藤 美月(川口)	瀬田 裕士(川越)	齋藤 正夫	清水 清	北島 義久(草加)	宮川 良輔(春日部)
宇田明佑子(川口)	駒井 仁(飯能)	小柳 智雄	吉村 昌治	白井 信雄(杉戸)	前田幸太郎(久喜)
柏田 和希(戸田)	片山 義三(西入間)	〈令和元年6月7日(石川)〉	関原 稔夫	小森 廣文(狭山)	中村 春男(幸手)
田中 浩幸(浦和)	山野 仰厚(東松山)	大平 明範	池田 則正	佐藤 清美(入間)	川山 相成(加須)
金子 勝則(浦和)	佐土原京也(川口)	居合道5段	武藤 盛男	橋本 桂一(東松山)	長尾 士郎(東入間)
森谷 良広(大宮)	八谷 玲(川口)	〈平成30年10月〉	恩田 建一	池浦 隆之(浦和)	柳澤 哲夫(狭山)
小林 誠吾(大宮)	宇田川航平(川口)	杉下 大	小笠原丈美	横瀬 満洋(大宮)	鈴木 光代(入間)
屋間 浩美(大宮)	犬塚 慶一(川口)	杉崎 利春	杖道7段	宮本 敏(上尾)	高見 敏(西入間)
大谷貴志男(大宮)	伊藤 勝也(川口)	高木 肇	〈平成31年1月17日(東京)〉	恒川 涉(高校)	陸名 勝尋(小川)
内山木綿子(大宮)	友安 孝之(川口)	野中 重男	鈴木 信男	杉山 栄樹(高校)	松澤 茂雄(小川)
大嶋 賢治(上尾)	中山 善夫(川口)	笠井 公一	杖道6段	齊藤 洋平(高校)	東 浩(川口)
大嶋 優奈(上尾)	松本 遼(朝霞)	鹿山 勲	〈平成31年1月17日(東京)〉	松井 俊之(高校)	佐藤 充弘(川口)
小池 紀友(鴻巣)	加藤 雅也(朝霞)	市川 勇三	永井 順子	〔剣道錬士〕	水本 吉昭(川口)
金子 喜夫(鴻巣)	藤本 一真(朝霞)	山崎 栞	杖道5段	〈平成30年11月27日〉	翠川 洋平(川口)
永野 顕大(北本)	吉岡 康範(朝霞)	〈平成31年4月〉	〈平成30年10月7日〉	森下 謙次(八潮)	廣江 剛(浦和)
土田洗太郎(深谷)	大林 翔大(浦和)	小山 聖二	杖道4段	奥島 馨子(八潮)	糸原 俊行(大宮)
真鍋 雄介(寄居)	金森 立樹(浦和)	坂本 嘉久	〈平成31年3月21日〉	鈴木 崇仁(八潮)	岡 武志(大宮)
中西 覚(寄居)	熊木 敬治(浦和)	上原 一馬	石原 仁道	柴田 隆之(越谷)	大道 満里(上尾)
石綿 泰士(本庄)	北村 成一(浦和)	星野 繁実	羽鳥 欽一	石野 豊(春日部)	外処 正則(上尾)
川田 鎮邦(警察)	越智 昂平(大宮)	森田 誠	田島 敏博	石川 修(加須)	手島 隆治(熊谷)
千種 尚紀(警察)	高橋 鯨丞(大宮)	斉藤 正嗣	倉上 皖教	石川 直基(所沢)	平賀 茂(熊谷)
森田 友理(警察)	五頭 亮太(大宮)	山中 延浩	堀越 友花	野本 克則(所沢)	引間いつみ(小鹿野)
牧野 康隆(警察)	春木 裕成(大宮)	柳田 静枝	杖道錬士	平岡 克則(所沢)	後 雄士(高校)
細沼美那子(警察)	大浦 眞吾(大宮)	居合道4段	〈平成30年11月27日〉	三戸 章義(東入間)	川久保 透(高校)
星野 雅俊(高校)	千葉 翔太(上尾)	〈平成30年10月〉	石原 仁道	伊藤由美子(狭山)	居合道教士
中武 憲哉(大学)	田村 祐一(上尾)	中島 直貴	羽鳥 欽一	野尻 昌利(川越)	〈平成30年11月27日〉
石丸 将平(大学)	泉 英太(北本)	柳澤 康一	田島 敏博	山崎 恒雄(西入間)	深田 芳昭
若林 優樹(大学)	土性 佳晴(北本)	長嶋 宏明	倉上 皖教	川野 敬三(西入間)	居合道錬士
尼子 祥大(大学)	細見 俊明(深谷)	中村 桂	堀越 友花	伊藤 雄徳(西入間)	〈平成30年11月27日〉
早川 哲平(大学)	横田 尚之(警察)	今村 嘉宏	杖道錬士	山崎 聡(浦和)	福間健太郎
牧島 竜馬(大学)	大熊 優吾(警察)	渡辺 英之	〈平成30年11月27日〉	川口 正成(浦和)	飯田 秀男
柳澤 康貴(大学)	黒沢 悠太(警察)	杉田 茂	伯耆田聡男(越谷)	岡本裕一郎(浦和)	草間 宏
須藤 峻平(大学)	逸見 光(警察)	石井 隆之	高柳 博志(越谷)	中川 剛(浦和)	田端 邦義
中城 和宏(大学)	大森 文夫(警察)	藤巻 隆治	飯田 雄一(久喜)	田口 陽二(浦和)	青木 四郎
糟谷 葉月(大学)	高崎 幹望(警察)	木村 雄次	田中 照男(久喜)	石関 健(浦和)	杖道錬士
沼田 愛澄(大学)	小淵 志晟(大学)	宮川 初弘	奥山 仁(羽生)	山形 秀雄(川口)	〈令和元年5月3日〉
大島 愛寧(大学)	川島 一朗(大学)	梶塚 博文	長谷川定男(行田)	大澤 芳昭(川口)	野口 京子
宮崎江里子(大学)	風間 颯(大学)	深田 武夫	萩原 恒男(所沢)	安達 篤子(川口)	
横田 真由(大学)	小野寺 貫(大学)	新井 正雄	森田 一(入間)	大久保祐二(川口)	
〈令和元年7月7日(大宮武道館)〉	大塚 弘惟(大学)	利根川一夫	荒川 良一(入間)	安田 武史(朝霞)	
大井 直人(草加)	植野祈良光(大学)	青木 淳一	甲斐 正勝(西入間)	高萩 喜弘(朝霞)	
甲斐 元揮(越谷)	居合道7段	鈴木 襄	林 晴彦(川口)	渡辺 文男(朝霞)	
野中孝次郎(越谷)	〈平成30年6月8日(山形)〉	平井 淑典	小日向貴史(朝霞)	大野 惣健(大宮)	
大澤 良郎(越谷)	須田美佐江	遠藤 邦夫	久木野信行(朝霞)	落合 洋司(大宮)	
望月 彩芽(越谷)	居合道6段	横田 麻衣	堀田 明良(浦和)	渡邊 典子(大宮)	
浦野 聖子(杉戸)	〈平成30年6月8日(山形)〉	巖野 幸江	和田 豊(浦和)	眞中 義治(大宮)	
石井菜美子(羽生)	永田 誠人	岡江 早月	木村 裕之(浦和)	宮北 守啓(大宮)	
坂本 邦拓(所沢)	梶田 安政	西形 信子	大越 一廣(大宮)	竹之下真奈美(大宮)	
須田 知恵(所沢)			加藤 健(大宮)	池上八重子(上尾)	
渋谷 敦(東入間)				町田 竜志(秩父)	

編集後記

今号も押し迫った5月京都開催の八段審査において若林耕多先生(久喜)合格というビッグニュースが入りました。若林先生には帰郷間がなくお疲れの中にも関わらず原稿依頼に快くお引き受け頂き審査に臨んだ貴重なご経験を皆様にお届けすることが出来ました。

御寄稿頂きました皆様に感謝申し上げるとともに更なる紙面の充実に努めてまいりたいと存じます。(川合)